

## 日中韓フォーサイト事業の事後評価の実施について

### 1. 趣 旨

#### (1) 「日中韓フォーサイト事業」の目的

日中韓フォーサイト事業は、我が国と中国・韓国の研究機関（以下、「拠点機関」という。）が連携して世界トップレベルの学術研究、地域共通の課題解決に資する研究及び優秀な若手研究者の育成を行うことにより、3カ国を中核としてアジアに世界的水準の研究拠点を構築することを目的とする事業で、先見性や将来への展望等を意味する” foresight” の名を冠しています。

本事業においては、3カ国の拠点機関が、「共同研究」、「学会会合（セミナー）」、「研究者交流」を効果的に組み合わせて実施するものとします。

なお、本事業による支援期間終了後も、拠点機関において、アジア地域における世界的水準の研究拠点として、継続的な活動を実施することが期待されています。

#### (2) 事後評価の目的

日中韓フォーサイト事業は、本会のアジア諸国との交流の中で大きな役割を果たすものであり、本会の中期計画に基づき、その実施状況及び成果について公開することとしています。また、大規模かつ長期間にわたる事業であるため、事業運営の透明性・公正性が特に強く求められます。

このため、本会では、実施期間が終了した課題について、事業によって得られた成果を明らかにするため、事後評価を実施します。

評価資料及び本会からの評価結果は、原則として公開します。

#### (参考) 独立行政法人日本学術振興会 中期計画（一部抜粋）

事業の成果及び効果を把握することに努め、事業の改善に反映させ、その成果について広く公開する。
--

#### (参考) 日中韓フォーサイト事業実施要項（一部抜粋）

第5条 本事業は、別に定める方法により、各年度及び終了時に評価を行うものとする。
--

## 2. 事後評価の方法及び評価項目

### (1) 方法

本会の国際事業委員会において、書面評価及び合議評価により実施します。

その後、3カ国の実施機関（日本学術振興会、中国国家自然科学基金委員会（NSFC）及び韓国研究財団（NRF））間において、評価結果を交換します。

### (2) 評価項目

これまでの研究交流活動による成果、交流実績・体制、今後の展望について評価します。主な評価の観点は以下のとおりです。

#### ① これまでの交流を通じて得られた成果

- ・ 研究交流活動を通じて「学術的側面」「若手研究者の養成」「研究教育拠点の構築」の観点から成果があがったか。
- ・ 研究交流活動の成果として優れた研究業績が発表されたか。
- ・ 本事業により得られた成果の社会への還元があったか。
- ・ 当初予期していなかった活動成果があったか。

#### ② 研究交流活動の実施状況

- ・ 研究交流目標達成に向けて、「共同研究」「セミナー」「研究者交流」を適切に計画し、実施したか。
- ・ 国内外の拠点機関及び協力機関間の実施体制・協力体制等は適切であったか。
- ・ 研究交流活動の実施にあたり、適切に経費が執行されたか。

#### ③ 今後の展望

- ・ 事業終了後も世界的水準の研究教育拠点として、継続的な研究交流活動の実施が期待できるか。